

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	伊藤ゆうき (いとうゆうき)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	博士後期課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2024 年 9 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	European Motor Control Conference 2024
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	Yuki Ito, Reiji Ohkuma, Rieko Osu
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	Adaptation to Visuospatial Modulation on Reaching Movements
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>半側空間無視 (Unilateral Spatial Neglect; USN) は、脳卒中後に見られる障害の一つであり、視覚的な問題がないにもかかわらず、患側の空間に反応することが困難になる症状である。現実の視覚空間全体を右側にシフトさせる拡張現実 (Augmented Reality; AR) システムは、USN 患者における無視空間での行動を改善する可能性がある。本研究の目的は、頭部固定条件と頭部を自由に回旋できる条件の違いが、健常者の視空間変調が上肢の到達運動に与える影響と適応の違いを調査することである。</p> <p>到達運動課題では、参加者は目の前の画面に表示されるターゲットに対し、可能な限り速やかに人差し指で触れるよう指示された。実験中に記録された指標は、ターゲットへの反応時間、ターゲット位置と到達点の間の距離、さらに運動学的データとして軌道、速度が含まれる。主な結果として、到達運動のエンドポイントにおいて、相対的な左右のターゲット空間位置によって誤差方向が異なる傾向が条件間でみられた。また、反応時間については、頭部固定条件において短縮する傾向が観察された。頭部回旋条件の違いは、左方向への到達戦略の変化、およびターゲット物体に向けた誤差の方向と大きさに影響を与えることが示唆された。</p>	

※無断転載禁止